

序

「東南アジア青年の船」事業は、わが国とASEAN（東南アジア諸国連合）の青年が船内や訪問国で生活を共にする中で、討論、ホームステイ等様々な交流活動を通じて、参加各国についての理解や青年間の友好と相互理解を深めるとともに、国際的視野を広げ、国際化が進展する社会の各分野で指導性を発揮することができる青年を育成することを目的としています。

本事業は、昭和49年にわが国とASEAN加盟国との共同事業として発足し、今回で43回目となりました。これまでの参加青年の累計は1万2千人近くに上っており、「東南アジア青年の船」事業は、わが国とASEAN諸国との友好の象徴とも言える存在になっています。

平成28年10月から12月にかけて実施した約50日間の今回の事業では、東京及び地方での国内活動を皮切りに、ベトナム、タイ、シンガポール、インドネシアを訪問するとともに、タイ滞在中には参加青年の代表団がカンボジアを訪問しました。

訪問国では、各国首脳等への表敬訪問、地元青年との交流、ホームステイなどを通じて、また船内では、各国に共通する課題についての討論、各国紹介、クラブ活動などを通じて、参加青年は、訪問国を始めとする参加各国についての理解や青年間の友好と相互理解を深めるとともに、幅広い視野をもつリーダーに成長するために役立つ様々な経験をすることができたものと考えています。

また、各国の青年は本事業で得た知見や経験に基づき、事業終了後に実施する社会貢献活動などの事後活動を自ら企画・立案しています。参加青年がこの計画を実践することで社会に貢献するとともに、本事業を通じて培ったネットワークを活かし、各国、地域、更には世界を舞台に国際交流活動や社会貢献活動に取り組んでくれることを期待しています。

この報告書は、参加青年が日本国内、船内及び各訪問国で行った様々な活動を記録したものです。また、本事業に対する各国首脳等からのメッセージや参加青年による事業評価等も収録しています。この報告書が本事業の内容や成果を御理解いただく際の一助となれば幸いです。

最後に、本事業の実施に当たって御協力いただいた参加各国政府、各国事後活動組織、ホストファミリー並びにわが国の外務省を始めとする関係省庁、地方公共団体及び青少年団体の関係各位に心から御礼申し上げます。

平成29年3月

内閣府青年国際交流担当室長
和田 昭夫